

令和5年10月31日

## 伊豆市議会教育厚生委員会行政視察報告書

教育厚生委員会 青木 靖

視察期間 令和5年10月17日（火）～19日（木）

視察先 兵庫県 洲本市・神河町・加西市・姫路市

### 1. 洲本市

「ウエルネスパーク五色」～地域に貢献する洲本市の再生可能エネルギー事業～

平成18年に洲本市と五色町が合併し洲本市になり、洲本市バイオマスタウン構想・洲本市地域新エネルギービジョンを策定。平成23年には、あわじ環境未来島構想が地域活性化総合特区に指定され、BDF（バイオディーゼル燃料）の製造事業を実施。平成26年には近畿初となる「バイオマス産業都市」に認定されている。

菜の花・ひまわりのバイオ燃料事業は、5%以下を軽油に混ぜるB5燃料として実用化されたが、菜の花の連作障害などにより、事業の拡大が難しかったとのこと。

その中で、竹資源の有効活用事業、竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーは有効に機能している。島内のNPOが伐採され切り揃えた竹を買取り、乾燥させてチップを製造し、ウエルネスパーク内の入浴施設のボイラーの燃料としている。ボイラーはオーストリア製で、年間80～140トンの竹を燃料として利用している。総事業費は、約五千五百万円。

又、太陽光発電事業も推進されており、電力自給率は50%。100%を目標にしている。市内のため池にフロート型のソーラー発電所を設置している事業が特徴的。

### 2. 神河町

「R e s o r tによん in 神河」の廃校跡地活用について

(株)アミューズ24が神河町の旧南小田小学校を全面改装し純和風の広い部屋を特徴とした「サービス付き高齢者向け住宅」を開設。合わせて隣接する幼稚園を「小規模多機能居宅介護施設」として事業を行い、相乗効果が得られるようにしたのがR e s o r tによん in 神河」。通いのデイサービス、泊りのショートステイ、訪問看護がセットになっている「小規模多機能」へ、高級感のある旅館のような住みたくなる「隣りの家」である「サ高住」から利用することができる。「サ高住」を有料老人ホーム的にできる仕組み。サ高住は、契約期間の自由度が高い賃貸式。数か月単位の利用も可能。

町は、土地を当初5年間無償貸与、建物は無償譲渡している。経営的にも小規模とサ高住を組み合わせることで、なんとかなっている状況とのこと。

又、同社は、無断離院検知装置を開発し、認知症高齢者徘徊通知システムとして運用されている。ICタグを付けた高齢者が勝手に施設を出ようとするとセンサーが感知し職員に知らせることが出来る仕組みになっている。

### 3. 河西市

「ただのまち河西」の子育て支援について

ライフステージにあわせた5つの無料化は、①保育料(0～5歳)②給食費(全保育・学校施設)③医療費(乳幼児～高校3年生)④オムツ(生後3か月～満1歳)⑤病児病後児保育。これらの無料化で、出生から高校卒業までの一人あたりの経済負担軽減額は約250万円になるとのこと。

令和5年度の子育て支援5つの無料化に関する予算は、5億5757万円。内、市負担分5億462万円、国・県費5295万円。

その財源は「ふるさと納税」。令和4年度のふるさと納税額は63億6100万円余(ポータルサイト手数料を差し引くと、30億円余になるとのこと)。使い道指定は、「子育て支援に使ってほしい」が16億円(市長にお任せ35億円、その他12億円余)。

ふるさと納税の返礼品は、有名な「アラジンのトースター」が70%を占め、フライパンが20%で続く。河西市は、サンヨー電機発祥の地で、元々「ものづくりのまち」でもある。市は、このトースター人気にあやかったふるさと納税の好調ぶりを背景に、現在の子育て支援政策を、10年間は継続する方針とのこと。

子育て支援政策のプロモーション戦略として、市内向けにチラシ六千部、パンフレット三千部を作成し、姫路市や加古川市のハウジングセンター等でも配布している。

市外向けには、WEB広告を利用し、配信エリアを設定(兵庫県・大阪北部)、配信ターゲットを限定(20～30代の男女)、配信結果の数値化を行っている(広告表示回数683万回、特設ホームページ閲覧回数3万9千回、等)。WEB広告は、Google広告を利用し、若い世代向けには必須である「インスタグラム」も使っている。

又、屋内遊戯型施設&テレワークセンター「アスモ」は、市内の女性就業率が増加し66%になるなか、コロナ禍の働き方の変化に対応し、子育てしながら継続して多様な働き方を可能にする環境を整え、子育て世代の転出を抑制する目的で造られている。

「ただのまち」に対して、市民から賛否両論あったため、現在の河西市のキャッチフレーズは『多様なくらし 夢がかなう「未来の田舎」かさい』になっていた。

### 4. 姫路市

「姫路市立美術館」

姫路城の一画に位置する。元は旧日本軍の施設であったらしい。施設は、2度の大規模改修をへて現在の施設になっている。費用の公表はなかったが、巨額の費用が費やされていることが容易に想像できる。煉瓦作りの2階建てで、姫路城との対比が美しい景観をつくっており、手前の広い庭園は、市民の憩いの場になっている。

フランス近代絵画を中心に、企画展を併設開催している。展示室内には多くの職員が配置されており、静寂な環境を保てるように配慮している様子が伺われた。

平日の午前中で、入館者は少ない状況であった。

以上